

令和3年(2021年)度 産業技術連携推進会議 ライフサイエンス部会  
第29回デザイン分科会 議事録

期 日：令和3(2021)年11月11日(木)～11月12日(金)  
会 場：1日目 まつもと市民芸術館 スタジオ2 (松本市深志3丁目10-1)  
2日目 松本民芸家具展示場、工場見学 (松本市中央4丁目7-5)  
国宝 旧開智学校 耐震工事見学 (松本市開智2丁目4-12)  
主 催：産業技術連携推進会議 ライフサイエンス部会 デザイン分科会  
国立研究開発法人 産業技術総合研究所  
長野県工業技術総合センター  
後 援：一般社団法人松本観光コンベンション協会

【1日目：第15回研究発表会】(出席者27名)

1 開会(司会進行：長野県工業技術総合センター 濱 淳)

2 挨拶

デザイン分科会長	工藤 洋司
産業技術総合研究所	宮田 なつき
長野県工業技術総合センター所長	宮嶋 隆司

以上3名より挨拶を受けた。

3 研究発表会

- 1) 大阪工業大学大学院 知的財産研究科 准教授 長谷川 光一  
「RDクラブの活動紹介」
- 2) 青森県産業技術センター弘前工業研究所 研究管理員 工藤 洋司  
「商品開発支援ツール「V-Cup」の現状」
- 3) 長野県工業技術総合センター 人間生活科学部 五味 英紀  
長野県の取り組み事例 地域資源製品開発支援センター13年余の歩み

4 全体会議質疑応答(司会進行：青森県産業技術センター 工藤 洋司)

1) 分科会のオンライン開催について

- ・ オンライン形式で分科会2回行って80名以上の参加があり、同一機関から複数名の参加も目立った。
- ・ 同一機関から年に複数回、複数名で参加ができる状況により多くの人とデザインの課題を共有できる。
- ・ セミナー・講演会などはネットワーク配信でも十分だが、議論をネットワークで行うのは難しい。
- ・ 議論を深めるには対面がよい。また交流会など含めた対面でのコミュニケーション

ンが現地開催のよいところである。

- ・ハイブリッド（現地と WEB）開催、配信されるなら現地に行かなくてもいいのではといわれてしまう可能性がある公設試が半数はあることを挙手で確認した。
- ・ハイブリッド開催の場合は、少なくとも 1 名が現地参加すれば WEB での参加を認めるなど現地へ来る人が減らないようにする仕組みが必要。
- ・デザインツール研究会はオンラインで議論する機会があった。分科会開催後のフォローとしてオンラインで議論を深めた。
- ・ハイブリッドの場合、現地参加できない状況になってしまわない工夫が必要。
- ・ネットからの参加者のコミュニケーション、オンラインでは伝わりにくい部分がある。オンライン開催のメリットデメリットをうまく活用して開催してほしい。

## 2) 分科会 WEB について、こらぼんネットについて

滋賀県で管理しているサーバが近い将来運用できなくなる。デザイン分科会のこれまでの蓄積情報は産技連のサイトで保持可能である。Facebook も併用して動いているので、今後は新情報発信については Facebook を活用して動いていく方向で進める。

## 5 連絡事項 次期会長挨拶と次年度開催県の紹介とあいさつ

### 1) 次年度会長挨拶 千葉県産業支援技術研究所 岡村 成将

来年度デザイン分科会の会長に就任する予定でございます。デザイン分科会は他の産技連の中でも年に 2 回開催しているという非常に珍しい会でして、逆に裏を返すとデザイン担当者というのは、各機関で非常に少数派に置かれています。分科会で 2 回という場を設けて、みなさんが交流できるということ、悩みなど語り共有できるということが非常に大事な場だと常々思っています。ですので、ここにも、歴代の 2 名の分科会長がいらっしゃいますけども、そうした方のお知恵を拝借しながら、デザイン分科会を維持、発展できるように皆さんの声を聴きながら努めてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

### 2) 次年度開催県挨拶 福岡県工業技術センター インテリア研究所 小野 昌志

例年通り 6 月、7 月頃開催したいと思っています。久留米市で現地開催を予定していますが、具体的な日程や会場の決定はこれからです。2 日目に視察場所を八女市の地域文化商社 うなぎの寝床様を予定しています。

## 6 閉会

【2日目：視察研修会】（出席者 19名）

◆集合 中町蔵シツク館前広場（松本市中央2丁目 9-15）

1 松本民芸家具・工場（松本市中央4丁目 7-5）

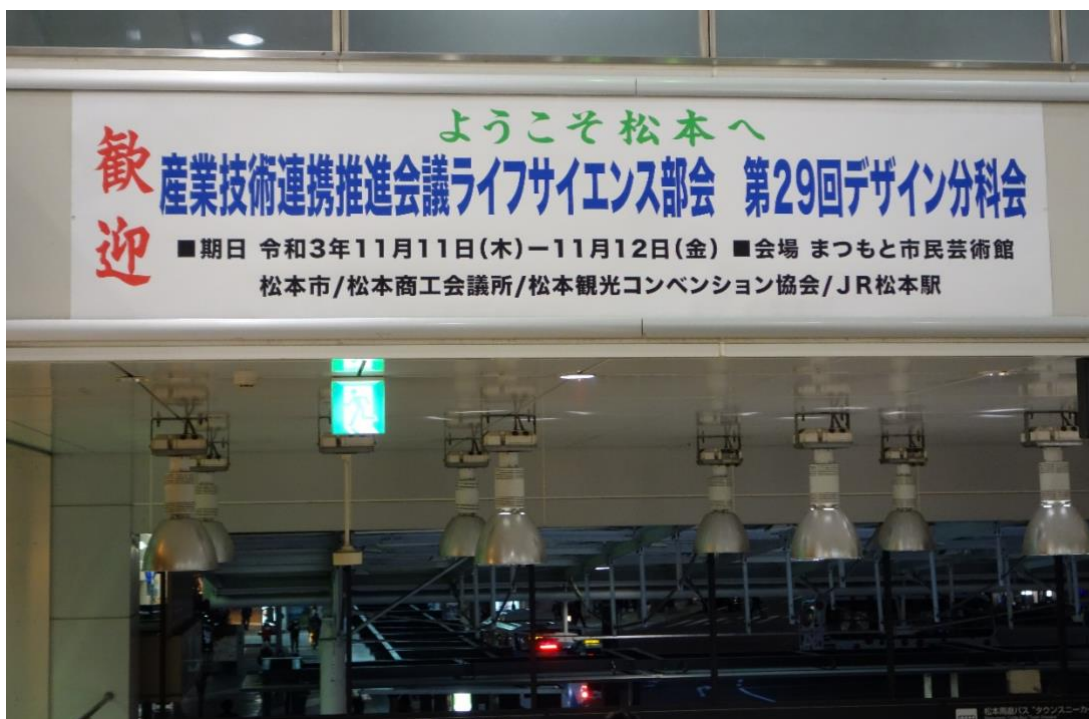
概要：松本民芸家具の池田素民常務取締役に、民芸家具の歴史、材料、椅子製造・家具製造の作業工程をご紹介・ご案内いただきました。椅子製造と家具製造の職人はそれぞれ専門として従事しており、両方に携わる仕組みにはなっていないとの事。また、自然光の下での観察を重視しているため、2階作業場には照明設備がない。椅子の部材として使っているイグサは、静岡県からの入手が困難になったため、松本市内に専用の畑を用意して栽培を始めたそうである。技術を次の世代に継承するための努力がしのばれるエピソードである。

2 松本民芸家具・中央民芸ショールーム（松本市中央3丁目 2-12）

概要：工場から徒歩10分弱の距離にある、中町の松本民芸家具ショールームを見学した。総2階建て、2階の一部に和箆笥などが展示されているが、概ね8割以上が欧風家具である。

3 国宝 旧開智学校（松本市開智2丁目 4-12）

概要：耐震工事の様子を、工事担当者の説明を受けながら、特別に見学させてもらった。建物は内部の土壁や床板をはがした状態であるため、廃寺の木材などが建築材料として流用されていることが確認できるなど、とても興味深い見学会となった。



横断幕（松本駅）



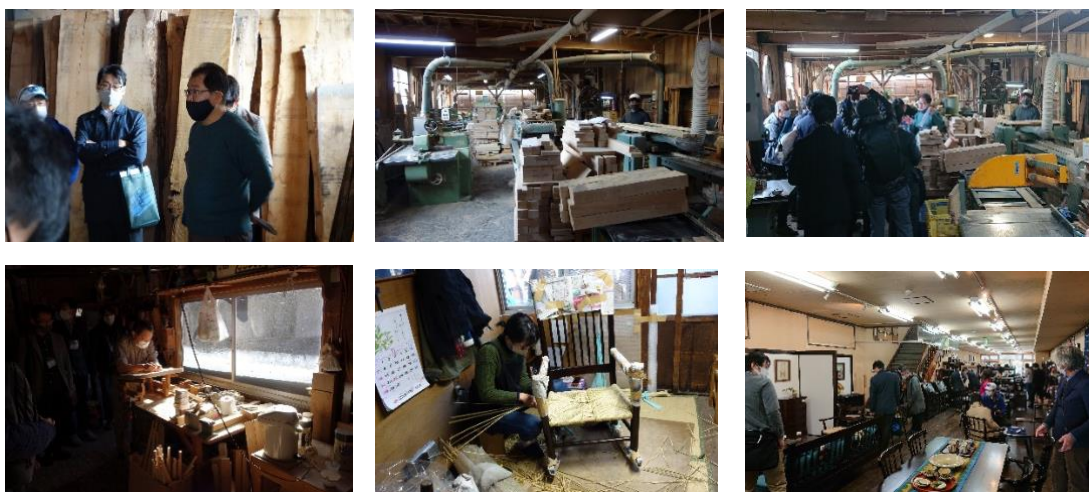
研究発表会、全体会議（まつもと市民芸術館 スタジオ2）



集合写真（まつもと市民芸術館 テラスにて）



意見交換会（大漁にて）



松本民芸家具とショールーム



旧開智学校